



あけましておめでとうございます。年末年始も休むことなく電力の安定供給のために全力を尽くされている皆様に心から敬意を表します。

昨年7月の参議院選挙においては、**小林正夫議員**が、党内比例得票最多となる270,285人もの仲間の後押しで、3選を果たすと同時に、私の任期も折り返し地点を迎えました。

昨年を、私なりに漢字一字で表すなら、「**歴**」です。電力関連産業にとっては、何よりも電力の全面自由化がありました。国内では陛下の退位のお気持ち表明や新政党である民進党の発足、国外ではトランプ米国大統領の誕生や英国のEU離脱など、**歴史の転換点となりうる大きな出来事**が続いた1年であったと振り返っております。

私も、1月の常会、参議院選挙後の臨時会、9月の臨時会と、3回の国会において、平成28年度予算や熊本地震への対応、TPP協定、年金関連法案、IR法案などの諸課題について、議院運営委員会理事としてその重要局面に携わってきました。

国内外ともに情勢が揺れ動く中、皆さんの代表として国会に議席をお預かりしている者として、将来を見据え、「守るべきを守る」冷静で堅実な議論の上で、責任ある政策を目指します。

平成29年1月

浜野 喜史

職場の声を国会へ！ ～平成28年国会報告

議院運営委員会理事

平成28年の通常国会冒頭から**議院運営委員会理事**を拝命しました。

議院運営委員会は、総理大臣をはじめとした閣僚や政府とのとのやり取りを通じて法案や予算案などを審査する他の委員会とは異なり、各会派の代表者が本会議の審議日程や議案について協議する会議です。この委員会の前段となる理事会の了承がなければ、予算や法案など、どんなに重要な案件であっても審議に入ることも、採決もできません。いわば、**院の運営全般に関わる大きな権限**を持っているともいえます。

実際に、臨時国会終盤では、重要法案の取り扱いを巡って与野党の主張がぶつかりあう本会議中の協議や、深夜の委員会での法案採決反対の意見表明など、緊迫した場面での出番が相次ぎ、改めて、その役割の重要さを痛感しました。

環境委員会・資源エネルギー調査会

私は、当選以来、**環境委員会**に所属しています。

この委員会では、**真に効果的な環境政策**と、**科学的・技術的見地に立った公正な原子力規制行政**の実現に向け、環境省および原子力規制委員会・規制庁への質問・意見提起を行っています。

また、臨時国会からは、長く所属した震災復興・原子力問題特別委員会が再編されて新設された**資源エネルギーに関する調査会**委員も務めています。

皆様のご意見を踏まえ、今年の委員会等で問題提起した主な課題をご紹介します。



本会議開会前の議院運営委員会の様子

温室効果ガス削減に向け、実効性ある政策実現を！

昨年は、“地球温暖化対策の推進に関する法律”や、気候変動に関わる国連法的枠組“パリ協定”の批准など、我が国の環境政策の今後を左右する事項の国会審議が行われました。

私は、環境省が「2050年に温室効果ガス80%削減」に向けて検討している「長期低排出発展戦略」について、「温室効果ガスの削減目標達成のためには、革新的な技術開発が必要！」「地球温暖化対策には、原子力の活用が必要不可欠！」などの主張を行いました。



日本原電敦賀発電所・北陸電力志賀発電所の敷地内破砕帯評価書の問題

原子力規制委員会・原子力規制庁に対する追及も、私の重要な役目です。

日本原電敦賀発電所の敷地内破砕帯の評価書については、以前から国会で取り上げており、そのたびに「こんな規制行政が行われているのでは原子力への信頼は回復しない」と感じています。

これまでの質疑を通じて「事業者の意見を聞くことなく評価書が取りまとめられている」「有識者が文案を最終的に了承した記録が残っていない」「有識者からの書き換えの提起や公開の場での議論なしに事務局がもっとも重要な結論部分の変更の提案を行っている」といった作成プロセスに重大な瑕疵があったことを明らかにしてきました。

北陸電力志賀発電所の評価書についても、「事業者の行った調査結果を踏まえていない」など、同じように作成プロセスの問題を抱えていることを国会で指摘しました。

関西電力高浜発電所への仮処分決定の問題

昨年3月9日に大阪地裁で決定された仮処分を受け、関西電力は高浜発電所の運転停止と料金値下げの見送りを余儀なくされました。これによる国民生活への影響は深刻です。また、仮処分の決定文においては新規制基準が「公共の安寧の基礎とはいえない」とされているなど、これまでの原子力規制行政そのものが否定されてしまっています。

私は、原子力規制委員会に対して「原子力規制に責任ある立場として、この決定について説明をすべきである」と国会で強く求め、当初は「裁判の当事者ではないので、コメントする立場にない」としていた原子力規制庁から、仮処分決定文中の事実誤認を明確にした資料を引き出しました。

皆様のご意見や情報を基に、政治・行政のあり方を正していくことが、小林議員や私に与えられた役割です。ぜひ、お声をお寄せください。お待ちしております。

今年も全力で取り組んでまいります！

浜野喜史

昭和35年12月21日兵庫県生まれ、神戸大学経済学部卒業
昭和58年4月 関西電力株式会社入社
平成9年6月 関西電力労働組合本部書記長
平成11年9月 全国電力関連産業労働組合総連合事務局長
平成17年9月 全国電力関連産業労働組合総連合会長代理
平成25年7月 参議院議員初当選

お問い合わせ・ご連絡は下記をお願いいたします。

浜野喜史事務所（電話）03-6550-0521（FAX）03-6551-0521
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館521号室

政策の3つの柱

「皆がいきいきと働ける社会」をめざします！

- 雇用のセーフティネットの整備、充実を目指します。
- メンタルヘルス対策をはじめとする労働環境、安全衛生に関わる政策・制度の充実をめざします。

将来にわたる「安定的なエネルギー政策」の確立をめざします！

- 「電力関連産業の健全な発展」をめざします。
- 「安心、安全」を万全にしつつ、「エネルギーの安全保障」「地球環境保全」「経済成長」を同時に達成するためのエネルギー政策を確立します。

「継続と改革」の実行を通じた「公正で活力ある社会」をめざします！

- 国民一人ひとりが安心して暮らすことができる社会保障制度をつくります。
- 働く者の視点に立った、公平・公正な税制度をつくります。